

令和5年度 自己評価公表シート

ひろせ幼稚園

1. ひろせ幼稚園の教育理念・目指す園児像

別紙記載のとおり。(令和5年度重点取組目標)

2. 重点取組事項

- (1) 計画的な教育・保育
- (2) 子どもが成長を実感出来る教育・保育<継続>

3. 評価項目の達成及び取組状況(評価基準 1~4)

項目		各項目	総合	理由
保育の計画性・在り方	1	園の教育理念・教育方針の理解	3.5	<p>3.3</p> <p>園の方針を十分に理解し、各管理職やリーダーの計画を忠実に再現することが出来ていた。特にこれまでの保育の在り方に固執することなく、新しい保育の展開や環境を構築し、クラス以外のスペースで活動を行う頻度が大幅に増した。</p> <p>特に年長を中心とした音楽活動及びマネーリテラシー活動に関しては、公開保育にて観覧していただいた方々から称賛された。今後も継続していきたい。</p>
	2	認定こども園教育要領の理解	3	
	3	教育課程の編成	3	
	4	ひろせ幼稚園の教育方針とクレドの理解	3	
	5	指導計画の作成	3.5	
	6	環境の構成	3	
	7	日々の保育計画の評価と反省	3.3	
	8	日々の保育実施	3.9	
子ども健康・安全配慮	1	子どもの健康と安全への配慮	4.3	<p>4.2</p> <p>子どもの安全を第一に考えた避難訓練を実施することで、子どもの命を第一に考えて行動するという保育者の最も大切な心がけを再確認することが出来た。また、様々な子どもの実状を把握し、発達相談センターや作業療法士、地域の保健師と連携を取ることで子ども理解に尽くした。</p>
	2	子ども理解	4	
研修と研究	1	自己研鑽	3	<p>3.0</p> <p>キャリアアップ研修などに積極的に参加する姿が認められた。また、公開保育を行ったり音楽活動への取り組み方を新しくしたことで、自主的に学ぶ姿があった。</p> <p>職員によっては自主的に受けたい研修を見つけ、参加する者もあったので、多いに推奨したい。</p>
専門アップリア	1	障害児保育	4	<p>4.0</p> <p>キャリアアップ研修によって、自分の興味のある分野を受講していった。特に需要が高い分野は障害児保育及び幼児教育であった。特に困りのある子どもに対する対応に苦慮している職員が多く、具体的な対応の方法を学びたいという強い希望が見られた。今後、積極的に園を挙げて情報発信や研究会の実施を行っていきたい。</p>
	2	マネジメント	3.8	
	3	子育て支援	3.9	
	4	乳児保育	4	
	5	幼児教育	3.8	
	6	食育・アレルギー	4.2	
	7	保健衛生・安全対策	4.3	
	8	保育実践	3.9	

4. 総合評価

結果	理由
3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT の活用については職員の活用方法も定着し、適宜必要に応じて進んで活用することが出来るようになってきた。 ・ 子ども達が楽しみながら基本的な生活習慣を身に付けられるように工夫したり、就学に必要なスキルを身に付けられるように工夫したりする先生達の姿が多く見受けられた。中でも保育内容を工夫する力を付けることが出来たことは、ここ数年の設定保育を繰り返す生活の中で大きく良い方に變化したと言っても過言ではない。 ・ 幼保小連携の面でも、総幼研活動に力をいれる必要性を感じている職員が多く見られた。総幼研教育に一層集中して取り組む中で、見つかった課題をそのままにせず、積極的に自由あそびの時間などを使って課題を解決しようと工夫することが出来た。 ・ 今年度からより具体的に自己評価を行うことが出来るように、項目について詳細に説明をつけ、保育内容について言及する内容にしたため、保育教諭はより身近に項目を感じる事が出来、より高い評価につながった。

「3. 評価項目の達成及び取組状況」と「4. 総合評価」の評価基準】

- 4 十分達成されている ・ 満足できる ・ よくあてはまる
- 3 達成されている ・ ほぼ満足できる ・ あてはまる
- 2 取り組まれているが、成果が十分ではない ・ 少し努力が必要 ・ あまりあてはまらない
- 1 取組が不十分 ・ かなり努力が必要 ・ 全くあてはまらない
- × 該当なし

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的取り組み方法
認定こども園としての子育て支援活動の実施	認定こども園には様々な子どもが通園している。そのため、子育てに関する様々な悩みを持つ保護者の方から相談を受けることも多い。子育て支援活動を通して、当園に在籍している子ども達の子育てを支援する他、これから集団生活を始めようとしている地域の方に向けて、当園の子育て支援活動が相談の受け皿になるべく、当園の子育て支援活動について広く周知をしていきたい。また、新たなニーズとして「慣らし保育」の2週間の仕事をどうするか、という保護者の方の悩みが見られた。ニーズに対応出来るような取り組みを考えたい。
総幼研活動の見直しと徹底	総幼研活動を引き続き継続していきたい。特に運動・健康面では、子ども達の怪我の頻度が目に見えて少なくなっていることから、毎日の体育ローテーションがいか健康や怪我防止の面で役立っているか、顕著である。また、子ども達の知的な好奇心を刺激し、より主体的な活動を展開できるように、保育教諭と研究を重ねながら磨きをかけたい。
歌唱活動の充実	昨年度、発表会にて年長児の歌唱・演奏発表ではとても成長を感じることが出来た。昨年度から取り組んでいる週3回以上の音楽活動への取り組みの成果だと考える継続して取り組んでいきたい。